

平成 24 年 3 月
直方市（福岡県）

I. 平成 23 年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成 21 年 6 月～平成 26 年 3 月(4 年 10 月)

1. 概況

平成 21 年 6 月に認定を受けた基本計画掲載事業 38 事業のうち、「総合流域防災事業(放水路設置)」、「JR 直方駅建替え事業」の 2 事業が完了、ソフト事業など 18 事業が実施中、未完了が 18 事業（うち 6 事業が未着手）である。

都市機能の強化に向け、「直方駅地区交通結節点改善事業」を実施中であり、平成 23 年 4 月に JR 直方駅の新駅舎が開業、平成 24 年度から駅東口の駅前広場整備に着手し、公共交通の乗り継ぎの一元化を行う。

また、「須崎町土地区画整理事業」により、JR 直方駅北側の須崎町地区における低未利用地の土地利用転換を進めており、区域内への「筑豊病院移転事業」が平成 24 年 8 月開業に向け施行中である。平成 23 年 11 月、区域内に完成した共同住宅は良好な入居状況である。

「空ビル再生事業」、「チャレンジショップ事業」において、もち吉ビル 1 階にテナント、イベントスペース、バリアフリースイレ、休憩所等が整備され、平成 23 年 11 月に飲食 7 店が出店するチャレンジショップが開業した。

「殿町伝統的建造物群保存事業」においては、平成 23 年度で調査事業が終了し、平成 24 年度から伝建地区認定に向け、まちづくり制度等の整備を行う。「のおがたレトロタウン整備事業」による電子案内板の整備や「のおがたレトロタウン回遊事業」でのレトロタウンマップの作成、「レトロタウンウォークラリー事業」や「4 館共通入場利用券の発行事業」による施設間での回遊性の向上、各施設でのイベント事業等、歴史と文化を活かしたまちづくりに取り組んでいる。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
中心部の都市機能を強化し、利便性を高めることによる賑わいの向上	歩行者・自転車 通行量	7,790 人 /日	8,430 人 /日	6,375 人 /日	-	③
歴史と文化を活かした新たな魅力の発掘による交流人口の増加	街なか文化施 設利用者数	41,498 人 /年	42,400 人 /年	40,626 人 /年	-	③

- 注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」については、減少傾向から平成 21 年度に上昇に転じるも、平成 22 年度には再度減少している。この調査が行われた平成 23 年 3 月中頃は、東日本大震災による自粛ムードが消費活動に影響していた時期でもあり、そのことが通行量減少の要因の一つとも考えられる。昨今の厳しい経済状況等により、事業スケジュールの遅れはあるものの、「直方駅地区交通結節点改善事業」、「須崎町土地区画整理事業」は着実に進捗しており、平成 23 年 4 月にバリアフリー化された JR 直方駅の新駅舎が開業し、平成 24 年 8 月に郊外から区画整理区域内へ移転する筑豊病院が開業予定であること等から、来街者の増加が見込まれる。平成 23 年度中に、区画整理区域内に完成した共同住宅 1 棟は既に満室であり、平成 24 年度に 1 棟、25 年度にも 1 棟の共同住宅建設が予定されていることから、街なかの居住人口増加も見込める。引き続き各事業を着実に進めるとともに、「チャレンジショップ事業」等ソフト事業についても積極的に事業を行い、街なかへの集客増を図ることで目標達成は可能と考える。

「街なか文化施設利用者数」に関しては、平成 25 年度目標数値設定に当たり、平成 15 年度から 19 年度までの年間利用者数の平均値 39,715 人を 25 年度の推計値とし、活性化事業実施による効果 2,651 人の増加を見込んだ約 42,400 人と設定している。平成 19 年度の基準年値と比較すると各年度により利用者数の増減はあるものの、平成 20 年度から 22 年度までの直近 3 年間の平均値は 40,710 人で、推計値比で 995 人増加しており、「のおがたレトロタウン整備事業」による電子案内板の整備や「のおがたレトロタウン回遊事業」でのレトロタウンマップの作成、「レトロタウンウォークラリー事業」や「4 館共通入場利用券の発行事業」による施設間での回遊性の向上、各施設でのイベント事業による集客等の効果が現れている。また、直方市賑わいまちづくり推進協議会を立ち上げ、ブランドづくりや、まち歩きガイド育成なども進めており、引き続き、歴史と文化を活かしたまちづくりに取り組んでいるところである。今後も事業を直実に進めるとともに、未実施事業の調整や新規事業追加を行うことで目標達成は可能である。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

5. 今後の対策

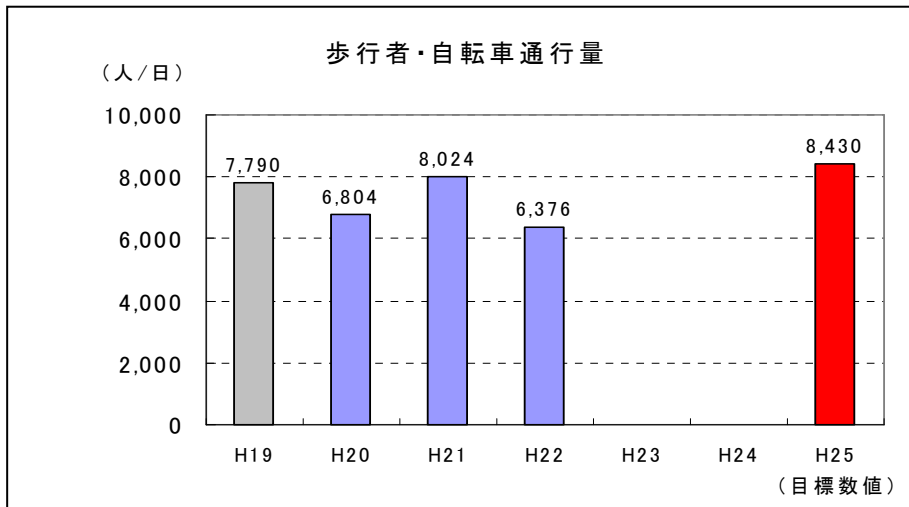
今後も引き続き、基本計画に位置づけられた各事業を着実に進めていくとともに、「石炭祭」の復活事業等遅れが生じている事業の着手、調整、必要に応じ事業の拡大、新規事業追加を行い目標達成に向けた取り組みを継続していく。また、「筑豊病院移転事業」に関連し商店街と病院関係者が中心市街地の活性化について考えていく、「医商連携」によるまちづくりの取り組みや「空ビル再生事業」、「チャレンジショップ事業」の事業地近隣の空き店舗を利用した碁会所「直方囲碁クラブ」の開設など、中心市街地活性化協議会を中心に、更なる事業間の調整や連携に注力する。

II. 目標毎のフォローアップ結果

「中心部の都市機能を強化し、利便性を高めることによる賑わいの向上」

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P46～P48 参照

1. 調査結果の推移



年	人/日
H19	7,790 (基準年値)
H20	6,804
H21	8,024
H22	6,376
H23	
H24	
H25	8,430 (目標値)

※調査方法；歩行者・自転車通行量調査

※調査月；平成 23 年 3 月実施 4 月取りまとめ

※調査主体；直方商工会議所

※調査対象；歩行者及び自転車通行者、平日・休日平均、5 地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 筑豊病院移転事業（(財)福岡県社会保険医療協会）

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	JR 直方駅に隣接する須崎町地区で実施している土地区画整理事業区域内に、病院及び駐車場の用地を確保し、現在郊外にある筑豊病院を誘致する。
事業効果又は進捗状況	交通利便性の高い駅前に誘致することにより、病院利用者数の増加、周辺商業施設への波及効果、周辺居住者への安全・安心のイメージ向上や街なか居住の促進に寄与する。 (平成 24 年 8 月開業予定)

②. 空ビル再生事業（株もち吉）

事業完了時期	【未】平成 23 年度～
事業概要	市内中心部の空きビルを活用し、商業店舗および事務所の開設とイベントスペース、バリアフリースイレ、休憩所等の整備を行う。
事業効果又は進捗状況	平成 19 年 12 月、2 階にコールセンターを開設。平成 23 年 11 月、1 階にイベントスペース、バリアフリースイレ、休憩所等を整備した。

③. 直方市商店街 IC ポイントカードシステム(仮称)事業 (直方市商店連合会)

事業完了時期	【未】平成 25 年度～
事業概要	商店街全体を一つのショッピングセンターとして機能させるためのツールとして、IC カードを用いた独自のポイントカードの導入を行う。
事業効果又は進捗状況	厳しい経済状況で IC カード導入が困難なため計画の実行が難しい状況。

④. 何かある商店街イベント事業 (直方市商店連合会)

事業完了時期	【実施中】昭和 34 年度～
事業概要	中心部の賑わいと消費拡大をテーマとした集客促進イベント・顧客導入セールの実施等、商業エリア・個店・まちの魅力づくりのための事業。
事業効果又は進捗状況	五日市に加えて地元高校生が企画するイベントなどを行っている。また商工会議所、市、商店街、JR、筑豊病院などが賑わいの向上を目指して、ワークショップを行い情報の交換、意見の交換を行っている。

⑤. チャレンジショップ事業 (直方商工会議所)

事業完了時期	【実施中】平成 23 年度～
事業概要	商工会議所および商工関係者らで組織する委員会によって商店街に不足する業種を中心に誘致し、新たな商業機能の充足を目的とするチャレンジショップの開設とテナント支援。
事業効果又は進捗状況	平成 23 年 11 月、もち吉ビル 1 階に飲食 7 店が出店するチャレンジショップ「ビストロ直方」が開業。出店者の育成のため経営指導、技術指導を実施している。

⑥. 公共交通 IC カード決済サービス導入促進事業 (九州旅客鉄道株・西鉄バス等)

事業完了時期	【未】平成25年度～
事業概要	駅周辺の商業施設に、公共交通機関の IC カードによる決済サービスを導入する。
事業効果又は進捗状況	厳しい経済状況で IC カード導入が困難なため計画の実行が難しい状況。

⑦. 直方駅地区交通結節点改善事業（直方市）

事業完了時期	【未】平成 25 年度
事業概要	JR 直方駅駅舎の移転及び東口の駅前広場整備により、2 つの鉄道（JR 九州、平成筑豊鉄道）と 2 つのバスセンター（JR 九州バス、西鉄バス）の乗り継ぎの一元化、バリアフリー化を進め、同時に西口広場の整備及びそれらを結ぶ自由通路を整備することで、中心市街地の交通結節機能を強化する。
事業効果又は進捗状況	平成 23 年 4 月新駅舎が開業。平成 24 年度から東口駅前広場整備工事予定。本事業による交通利便性の向上と隣接地区で施行中の区画整理事業との相乗効果により、街なか居住促進、商店街の賑わい回復に寄与する。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

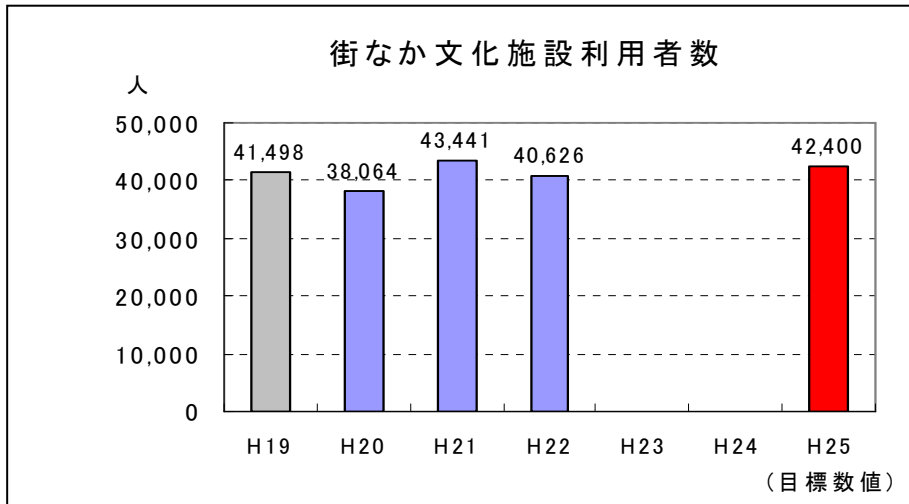
「歩行者・自転車通行量」については、平成 21 年度に基準年値を 200 人以上上回ったものの、最新値では基準年値を下回っている。しかしながら、「直方駅地区交通結節点改善事業」、「須崎町土地区画整理事業」によるハード整備が進んでおり、平成 23 年 4 月に J R 直方駅の新駅舎の開業や郊外から区画整理区域内へ移転する筑豊病院が平成 24 年 8 月に開業することにより、今後、病院利用者、従業員等来街者の増加がおおいに見込まれる。区画整理区域内への共同住宅建設も進行中で、街なか居住人口増加に繋がっており、平成 23 年度に商店街内の大型ビルにオープンしたチャレンジショップや平成 22 年度に発掘したご当地グルメ「直方焼スパ」を核としたイベントなど、街なかへの集客増を図る取り組みを引き続き行うことで目標達成は可能と見込まれる。

今後も事業を直実に進めるとともに追加事業の掘り起こしなど目標達成に向け、地域一体となり取り組む。

「歴史と文化を活かした新たな魅力の発掘による交流人口の増加」

「街なか文化施設利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P49～P50 参照

1. 調査結果の推移



年	人／年
H19	41,498 (基準年値)
H20	38,064
H21	43,441
H22	40,626
H23	
H24	
H25	42,400 (目標値)

※調査方法；街なか文化施設利用者数

※調査月；平成 23 年 3 月末時点調査、4 月取りまとめ

※調査主体；直方市

※調査対象；当該年度の各施設の利用者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 殿町伝統的建造物群保存地区事業（直方市）

事業完了時期	【未】平成 22 年度～
事業概要	のおがたレトロタウン地区に多数存在する歴史的建造物群を保存・整備することで、都市の文化的魅力の向上と集客力アップを目指す。
事業効果又は進捗状況	平成 23 年度で調査事業が終了し、報告書の作成をおこなっている。平成 24 年度からは、伝建地区の認定を目指し、まちづくり制度や法制度の整備を行う。

②. のおがたレトロタウン整備事業（直方市）

事業完了時期	【未】平成 21 年度～
事業概要	殿町を中心とした「のおがたレトロタウン」の回遊性を高める照明施設、カラー舗装、案内板などの整備。
事業効果又は進捗状況	平成 21 年度に電子案内板の整備を実施した。今後も伝建事業の景観整備と一体となって行っていく。

③. のおがたレトロタウン回遊事業（直方商工会議所）

事業完了時期	【実施中】平成 21 年度～
事業概要	レトロタウンエリアの回遊マップを作成することにより、まちの魅力を広く来街者に PR し、回遊性を高めるとともに、エリア内の文化施設などの利用者の増加や知名度の向上が期待される。
事業効果又は進捗状況	平成 21 年度に回遊マップを作成した。まちの魅力を来街者に広くPR し、街なかの賑わい・回遊性の向上、文化利用施設の利用者増加に一定の効果을 上げている。

④. 4 館共通入場利用券の発行事業（財文化青少年協会）

事業完了時期	【実施中】平成 18 年度～
事業概要	4 館共通のお得な共通入場券を発行し、施設間での回遊性を高める効果があり、各施設でのイベント事業による集客を他の施設へ誘導することにより、利用者の増加や知名度の向上が期待される。
事業効果又は進捗状況	平成 18 年度より実施しており、年度により増減はあるものの、一定の効果が出ているため、引き続き事業を行っていく。

⑤. ギャラリーのぐち共同割引券発行事業（財文化青少年協会・㈱ギャラリーのぐち）

事業完了時期	【実施中】平成 21 年度～
事業概要	市外から幅広い集客力のあるギャラリーのぐちと 4 文化施設の共同割引券を発行することで、回遊性を高めるとともに、のおがたレトロタウンエリア内の文化施設の利用者の増加や知名度の向上を図る。
事業効果又は進捗状況	平成 21 年度より実施しており、年度により増減はあるものの、一定の効果が出ているため、引き続き事業を行っていく。

⑥. のおがた発祥人力車タクシー運行事業（㈱まちづくり直方）

事業完了時期	【未】平成 25 年度～
事業概要	人力車発祥地として、人力車タクシーをのおがたレトロタウンエリア内で運行し、エリア内の回遊性の向上を図るとともに、新たな集客の手段とする。
事業効果又は進捗状況	人力車の所有者、交通事業者と協議中であるが、実現が難しい状況である。

⑦. レトロタウンウォークラリー事業（㈱まちづくり直方）

事業完了時期	【実施中】平成 21 年度～
事業概要	レトロタウンエリア内の施設や歴史的建造物群等をめぐるウォークラリーの実施により、まちの魅力を広く来街者に PR し、回遊性を高めるとともに、エリア内の文化施設の利用者の増加や知名度の向上が期待される
事業効果又は進捗状況	平成 21 年度イベントに合わせてウォークラリーを実施し、約 1,000 人の来街者があった。商工会議所と連携し、平成 22 年度には市内の人気スポットを巡るモニターツアーを実施。平成 23 年度には体験型・着地型プログラムを行う「直方博」を行い、その中で平成 22 年度から育成したボランティアガイドによるまち歩きツアーを行った。

⑧. 「石炭祭」の復活事業（石炭祭実行委員会（仮称））

事業完了時期	【未】平成 25 年度～
事業概要	昭和 30 年代に、のおがたレトロタウンエリア内を中心として盛大に実施されていた石炭祭を復活させる。
事業効果又は進捗状況	石炭祭を含む地域資源の掘り起こし検討を行い、新たな集客の手段とする。

⑨. ギャラリーのぐち共同イベント事業（財文化青少年協会・㈱ギャラリーのぐち）

事業完了時期	【未】平成 25 年度～
事業概要	美術館にて個展をおこなう作家の作品を民間商業者であるギャラリーのぐちで購入することが可能になるなどの連携事業。
事業効果又は進捗状況	財文化青少年協会と㈱ギャラリーのぐちで協議を行っているが、実現が難しい状況である。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

「街なか文化施設利用者数」に関しては、平成 19 年度の基準年値と比較すると各年度により利用者数の増減があるものの、直近 3 年間の平均値では、目標値設定時の今後の推計値より 995 人増加しており、「のおがたレトロタウン整備事業」や「のおがたレトロタウン回遊事業」、各施設でのイベント事業の効果が現れている。また、直方市賑わいまちづくり推進協議会を立ち上げ、「ブランドづくり」としての市民のワークショップによる直方のロゴマーク・キャラクター・特産品等の開発や、のおがたレトロタウンのボランティアガイドとして研修を受け、平成 23 年度の「直方博」でのデビューを果たした「まち歩きガイド」の育成なども進めており、引き続き、歴史と文化を活かしたまちづくりに取り組むことで、目標達成は可能である。

今後も事業を直実に進めるとともに追加事業の掘り起こしなど目標達成に向け、地域一体となり取り組む。